



中高生のための英語×探究
プレゼンコンテスト
第8回

Change Maker Awards (CMA)
開催概要

全国大会：2026年3月22日（日）

開催場所：東京国際交流館 プラザ平成

主催：一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会

CMA実行委員会



※内容は変更される可能性がありますのであらかじめご了承ください。

2025年9月29日 更新

協賛

株式会社JTB

株式会社ジャパントイムズ出版

株式会社ECC



後援

現在申請中です。

※第7回CMA実績：文部科学省、経済産業省、独立行政法人 国際協力機構（JICA）、公益社団法人 全国学習塾協会

Go! Do! Be!

《Change Maker》とは、すなわち「Go ! Do ! Be !」の3要素を体現する人物のことです。

果敢に前進（Go）、実施（Do）、そして実現（Be）するような人。

本コンテストでは、このような人を応援します。

インターネットで世界中につながる便利な世の中だからこそ、そんな世の中を先頭切って導いていく人物が求められています。

明るいうでいて混迷を極めるようでもある今の社会。

その中で自ら道を切り開き行動できる人材を応援したいと思っています。

Change Maker Awards (CMA) は、中高生のための英語×探究のプレゼンテーションコンテストです。自分が夢中になっている「探究」について「英語」でプレゼンテーションを行います。

CMAでは、英語力 2割、探究学習の内容 8割で審査を行います。自分が探究しているモノ／コトのインパクトを信じている方、そしてそれらを世界へ発信しようとする方たちが集まり競い合う場です。



CMA全国大会出場者には、一人最大60万円の国内外学習支援プログラムを用意しております。

探究学習のさらなる高みを目指し、国内外で見聞を広めたい中高生の皆様のご応募をお待ちしております。

入賞特典・参加特典

全国大会に出場した個人部門（10人）・チーム部門（10チーム）の中から金賞、銀賞、銅賞を授与し、学習支援プログラムを提供します。

スポンサー賞（個人部門 1人、チーム部門 1チーム）も用意しております。

入賞できなかった個人・チームには全国大会出場賞を授与し、学習支援プログラムを提供します。

学習支援プログラムには、提携する語学学校が提供する海外留学や英会話スクール、オンライン英会話スクールなどがあり自由に選ぶことができます。

学習支援金は、金賞 60万円、銀賞 40万円、銅賞 30万円、全国大会出場賞 10万円です。



金賞

個人部門：1名
チーム部門：1チーム
60万円分の学習支援プログラム



銀賞

個人部門：1名
チーム部門：1チーム
40万円分の学習支援プログラム



銅賞

個人部門：1名
チーム部門：1チーム
30万円分の学習支援プログラム



スポンサー賞

個人部門：1名
チーム部門：1チーム
スポンサー企業による
賞品授与



全国大会出場賞

個人部門：6名
チーム部門：6チーム
10万円分の学習支援プログラム

※チーム部門の方には、一人ひとりに上記学習支援金を支給します。

※学習支援プログラムを金銭に換えて受け取ることはできません。

※学習支援金を超える額の学習支援プログラムもお申し込みいただけます。ただし、超えた分は利用者負担となります。

金賞～銅賞の他に、CMAのスポンサーによる「スポンサー賞」があります。
Global Link賞は、株式会社JTBによるスポンサー賞です。（第1回から設置）

Global Link賞（第1回～）



Global Link

世界とつながる教育プログラム

Global Linkは、共通の興味関心を持つ他国からの参加生徒に向けて、自分の研究内容を英語で発表・議論でき、交流出来る課題研究グローバルコンテストです。研究内容や英語での発表をブラッシュアップできる事前プログラムもご用意し、中高生の皆さんの参加をお待ちしています。

Global Link賞を受賞したチームには、Global Link Singapore の出場権を授与し、参加費用は無料で招待されます。

The Japan Times Alpha賞は、株式会社ジャパントイムズ出版によるスポンサー賞です。（第3回から設置）

The Japan Times Alpha賞（第3回～）



The Japan Times Alphaは日本で最も歴史のある英字新聞社ジャパントイムズが発行する週刊英語学習紙です。時事英語を大量に読み込むことを通してリアルな英語の習得を目指すことをコンセプトに、1951年の創刊以来、時代に合わせたりニューアルを重ねながら、70年にわたり熱心な英語学習者に親しまれています。

The Japan Times Alpha賞は、個人部門の出場者へ贈られます。

The Japan Times Alpha賞を受賞した生徒には、以下の特典を授与します。

- The Japan Times Alpha紙の1年間無料購読
- The Japan Times Alpha紙のデジタルビューアを通しての1年間無料購読
※デジタルビューアを利用するためのIDとパスワードを発行します。
※IDとパスワードは、受賞者の所属する学校のすべての方が利用できます。



地方ブロック予選

- 2025年 10月3日（金）** 地方ブロック予選のエントリー受付開始
・エッセイ受付開始
- 12月4日（木）** 地方ブロック予選のエントリー受付締切
・エッセイ受付締切
- 12月6日（土）** 地方ブロック予選審査開始
- 12月17日（水）** 地方ブロック予選結果発表
・予選を通過した個人・チームは地方ブロック決勝へ進みます

地方ブロック決勝

- 12月18日（木）** 地方ブロック決勝用動画受付開始
- 2026年 1月22日（木）** 地方ブロック決勝用動画受付締切
- 1月24日（土）** 地方ブロック決勝審査開始
- 2月11日（水）** 地方ブロック決勝結果発表
・決勝を通過した個人・チームは全国大会へ進みます

全国大会

※全国大会開催日までに「事前ミーティング」をZoomにて開催します。（参加必須）

- 2月12日（木）** プレゼン資料受付開始
- 3月5日（木）** プレゼン資料受付締切
- 3月22日（日）** 全国大会開催

中高生のための **英語×探究** フレゼンコンテスト

第8回

cma

出場者募集!

★参加費 無料 ★交通費・宿泊費支給

2025年10月
オンラインで
予選受付開始!

Change Maker Awards

日時

2026年3月22日(日) 10:00~

会場

東京国際交流館 フラザ平成 (東京お台場)

〒135-0064 東京都江東区青海2丁目2-1

募集テーマ

●個人部門・・・世界に伝えたい私の探究。「世界に伝えたい私の探究」をテーマにして、自分が熱中している・夢中になっている探究の「成果」をフレゼンテーションしてください

●チーム部門・・・私たち×○○。「私たち×○○」をテーマにして、自分たちが熱中している・夢中になっている探究の「成果」をフレゼンテーションしてください

入賞特典

全国大会出場者には右記金額の学習支援の他、協賛企業による以下のスポンサー賞をご用意しております

金賞



60万円

銀賞



40万円

銅賞



30万円

参加賞



10万円



★Global Link賞 (チーム部門)

Global Linkシンガポールの出場権(参加費用無料)

★The Japan Times Alpha賞 (個人部門)

The Japan Times Alpha紙の1年間無料購読、および同紙のデジタルビューアを通しての1年間無料購読

協賛



the japan times



総合教育・生涯学習機関



→詳しくはCMA公式サイトまで

CMAコンテスト

検索

<https://esibla.or.jp/change-maker-awards/>



主催・お問い合わせ 一般社団法人英語4技能・探究学習推進協会 (ESIBLA)

東京都港区芝5丁目14-13アセント三田7階 TEL: 03-4405-3630 E-mail: info@esibla.or.jp



地方ブロック予選 (エントリー)

個人部門



「世界に伝えたい私の探究」

—Show your Research/Action to the World—

「世界に伝えたい私の探究」をテーマにして、
自分が熱中している・夢中になっている探究の「成果」を
プレゼンテーションしてください。

チーム部門



「私たち×〇〇」

—Attract the World with your Research/Action—

「私たち×〇〇」をテーマにして、
自分たちが熱中している・夢中になっている探究の「成果」を
プレゼンテーションしてください。

◆個人部門とチーム部門

CMAには、個人部門とチーム部門の2つの部門があります。1人の場合は個人部門にエントリーしてください。また、2人～4人の場合はチーム部門にエントリーしてください。なお、1人の生徒が個人部門とチーム部門の両方の部門にエントリーすることはできませんのでご注意ください。

※過去にCMAにエントリーしたことがある人が再びエントリーすることもできます。

※1校から何人・何チームでもエントリーできます。

※海外在住の人は、全国大会に出場する際に帰国して直接会場まで来られる人に限ってエントリーできます。なお、オンラインでの参加は認めていません。

◆チーム部門のエントリー人数

チーム部門でエントリーできる人数は、1チームにつき2人から4人までです。1つのチームにエントリーした人は、他のチームからエントリーすることはできません。

	参加可能 人数	同じ部門への 重複 エントリー	他の部門への 重複 エントリー	前回エントリ ーしたこと のある方のエン トリー	1つの学校か らの エントリー
個人部門	1人	できません	できません	できます	何人でもOK
チーム部門	2人～4人	できません	できません	できます	何チームでも OK

◆エントリー資格

エントリー資格は下記のいずれかに該当する生徒です。

- 学校教育法第1条に規定されている中学校、高等学校、および中等教育学校に通う生徒
- オルタナティブスクールやフリースクールに通う生徒
- 日本国外に在住し日本の中学校・高等学校に相当する学校に通う日本国籍の生徒

※エントリー資格があるかどうかを確認したい方は、CMA実行委員会までお問い合わせください。

◆エントリー方法

CMAへの出場を希望される方は、地方ブロック予選にエントリーしてください。
お手持ちのパソコン、あるいはスマートフォンなどを使ってCMA公式サイト「エントリー」のページにアクセスして手続きをしてください。なお、郵便やFAXなどによるエントリーの受付は行っておりません。

※特別な事情がある場合はお問い合わせください。

エントリーの手続きができる人は、(1) 生徒本人、(2) 生徒の保護者、(3) 学校の担当の先生のいずれかです。担当の先生の場合、1回のエントリーで個人部門 最大5人まで、あるいはチーム部門 最大5チームまでの一括エントリーが可能です。6人以上（6チーム以上）エントリーする場合は再度エントリーしてください。

地方ブロック予選のエントリーでは以下の情報を入力していただきます。**すべて必須項目**です。お手持ちの下記情報をご用意の上、エントリーしてください。

- エントリー者全員の情報
 - 氏名、ふりがな、メールアドレス、電話番号、学年、英語スキル
- 保護者様全員の情報
 - 氏名、ふりがな、メールアドレス、電話番号
- 担当先生の情報
 - 氏名、ふりがな、メールアドレス、電話番号
- 学校の情報
 - 学校名、学校の所在する都道府県
- エッセイ

※メールアドレスは、Gmailのみ受け付けます。Gmail以外のメールアドレスではエントリーを受け付けませんのでご注意ください。Gmailアドレスをお持ちでない方は、あらかじめ取得の上、エントリーしてください。

※チーム部門の場合には、参加者全員（エントリー者と保護者様）の情報が必要です。
※メールアドレスは、お一人につき1メールアドレスをご用意ください。エントリー者同士、あるいはエントリー者と保護者様同士でのメールアドレスの共用はできません。



第8回CMAでは、全国を東日本ブロック、東京ブロック、西日本ブロックの3つの地域に分け、各ブロックにおいて予選および決勝を実施します。各ブロック決勝を勝ち抜いた個人・チームが全国大会への出場権を獲得します。



東日本ブロック

東日本ブロック予選、東日本ブロック決勝を開催します

対象地域：北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県

東京ブロック

東京ブロック予選、東京ブロック決勝を開催します

対象地域：東京都

西日本ブロック

西日本ブロック予選、西日本ブロック決勝を開催します

対象地域：新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県
静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県
和歌山県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県
愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県
鹿児島県 沖縄県

※エントリー数によってブロックの割り当てを変更する場合があります。

※海外の学校については状況に応じてブロックを割り当てます。

地方ブロック予選では、エッセイの書類審査を通じて地方ブロック決勝進出者を選出します。**エッセイは日本語**で約800字で作成し、**必ず英語のタイトル**を付けてください。
※「800字程度」の文字数は、720文字以上880文字以下を目安にしてください。あまりにも少ない文字数・多い文字数にならないようにご注意ください。
※タイトルの例（第4回CMAの例）：「Using Plastic Waste to Create Homes and Shelters」、「The Shibuya Olympiad of Liberal Arts SOLA 2021」
※出場者は審査当日に参加する必要はありません。
エッセイは地方ブロック予選エントリーの時に提出していただきます。エントリー受付開始間近になりましたらCMAサイトにて詳細をお知らせします。

エッセイの内容について

◆個人部門

全国大会でプレゼンする探究テーマについて、以下の4点を述べてください。

1. 探究に至る背景
2. 探究の目的
3. 探究の成果
4. 世界をどう変えるか



◆チーム部門

全国大会でプレゼンする探究テーマについて、以下の4点を述べてください。

1. 探究の目的
2. 探究の成果
3. 世界をどう変えるか
4. なぜチームとして探究を行いCMAに参加したのか

メモ欄について

エッセイ投稿画面の下部に設置されている「メモ欄」は、エッセイ本文を補完する情報を記載する専用エリアです。メモ欄の記載内容は審査対象外となりますが、以下の情報を適切に記入することで、エッセイの信頼性を高めることができます。

記載内容

・受賞履歴

エッセイで言及した受賞歴の詳細情報を記載してください。

記載項目：大会名、受賞名、受賞年度

証明資料：受賞を証明するWebサイトのURL（可能な場合）

・参考文献

エッセイ内で引用・参考にした文献等の出典情報を記載してください。

記載項目：文献名、著者名、発行年

追加情報：文献が掲載されているWebサイトのURL（該当する場合）

重要な注意事項

メモ欄を効果的に活用し、説得力のあるエッセイ作成にお役立てください。

◆エッセイのサンプルをご覧ください

過去のエッセイの好事例をご覧ください。

● 個人部門

- [第6回CMA金賞 岡山学芸館高等学校 平岩恋季さん](#)

● チーム部門

- [第6回CMA金賞 開智日本橋高等学校 クアトロフリホレスの皆さん](#)



審査

第8回 Change Maker Awards (CMA) では、地方ブロック予選、地方ブロック決勝、全国大会を開催します。審査は、個人部門とチーム部門に分けて行います。

地方ブロック予選

地方ブロック予選への参加には、**エントリー時にエッセイの提出が必要となります。**予選は、日本全国を東日本・東京・西日本の3ブロックに分けて実施します。

予選では審査基準に基づく書類審査を行い、高評価を得た個人・チームに地方ブロック決勝への出場権が付与されます。各ブロックからは約20名・20チーム、総数およそ60名・60チームが決勝へ進出します。ただし、審査結果により、最終的な進出者数は変動する場合があります。

地方ブロック決勝

決勝では、予選を通過した参加者を対象に、審査基準に基づく**動画審査**を実施します。各ブロックの1位獲得者には全国大会への出場権が与えられ、以下の賞が授与されます。

- 1位：地方ブロック金賞
- 2位：地方ブロック銀賞
- 3位：地方ブロック銅賞

また、各ブロックの2位以下の参加者の中から、高評価を得た7名・7チームにも全国大会への出場権が与えられます。これにより、全国大会には合計10名・10チームが出場することとなります。

なお、順位と評価は必ずしも一致しないため、2位入賞でも評価次第では全国大会に出場できない場合があります、逆に4位であっても高評価であれば出場権を獲得できる可能性があります。

地方ブロック予選

個人部門

- 東日本ブロック
 - 東京ブロック
 - 西日本ブロック
- に分かれて**書類審査**を実施



チーム部門

- 東日本ブロック
 - 東京ブロック
 - 西日本ブロック
- に分かれて**書類審査**を実施



各ブロックの上位20人・20チームが
地方ブロック決勝へ進出



個人部門から合計60人
チーム部門から合計60チーム
が決勝進出



地方ブロック決勝

個人部門

- 東日本ブロック
 - 東京ブロック
 - 西日本ブロック
- に分かれて**動画審査**を実施

チーム部門

- 東日本ブロック
 - 東京ブロック
 - 西日本ブロック
- に分かれて**動画審査**を実施

各ブロックの上位1人・1チーム（計3人・3チーム）、および
全ブロックの中から上位7人・7チームが全国大会へ進出



全国大会

Change Maker Awardsは、地方ブロック予選、地方ブロック決勝、全国大会の3段階で構成されています。それぞれの段階で審査方法や評価基準が異なりますので、各段階の審査に見合う準備と対策を行うことが重要です。

審査基準の全文はこの後のページ「審査基準」をご覧ください。

地方ブロック予選

地方ブロック予選では、エッセイによる書面審査が行われます。この段階では英語でのプレゼンテーションは必要なく、日本語で書かれた探究活動の内容を評価します。個人部門とチーム部門では、基本的な評価の流れは同じですが、チーム部門では「なぜチームで取り組んだのか」や「チームワーク」に関する評価が追加されます。また、全体的な配点もわずかに異なります。

地方ブロック予選は、個人部門もチーム部門も28点満点のエッセイ審査です。この段階では、まず「テーマに指定された内容がすべて含まれているか」という基本的な要件をクリアする必要があります。個人部門では「探究の背景」「探究の目的」「探究の成果」「世界をどう変えるか」の4つの要素が必要で、チーム部門ではこれに加えて「なぜチームとして参加したのか」という要素も含める必要があります。

もしこの基本要件を満たしていない場合、他の評価がどれだけ高くても総合点は0点になってしまいます。そのため、まずはこれらの要素をすべて含んだエッセイを書くことが最も重要です。

その他の評価項目では、探究活動が目的に対して論理的なアプローチになっているか、目標達成への進捗が読み取れるか（個人部門）またはチームワークが探究活動の推進力となっているか（チーム部門）、実現したいChangeが具体的に述べられているか、探究活動の成果が具体的で分かりやすく述べられているかが、それぞれ1点から7点で評価されます。

地方ブロック決勝

地方ブロック決勝では、英語でのプレゼンテーション審査に変わります。個人部門は104点満点、チーム部門は98点満点になります。新たに「英語力」の評価が14点分追加され、「聞き取りやすい発声・発音」と「効果的なボディランゲージの使用」が評価されます。

内容面では、予選よりもさらに詳しい論理的な説明が求められます。特に、自分の探究活動がどのような視点で考えられたのか、そのアクションがなぜ効果的なのかを論理的に説明する必要があります。また、主張を裏付けるデータや事例を示すことも重要になります。

チーム部門では、メンバーの長所を活かすなど、チームとして活動する工夫が評価されます。単に友人と一緒に取り組んだというだけでなく、それぞれのメンバーがどのような役割を果たし、チームで取り組むことでどのような効果が得られたかを具体的に示す必要があります。

全国大会

全国大会では、さらに「パフォーマンス」という評価項目が追加されます。個人部門は128点満点、チーム部門は126点満点になります。この「パフォーマンス」では、質疑応答への対応力とプレゼンテーションとしての完成度が評価されます。

質疑応答では、審査員からの質問に対して明確で適切な回答ができるかが評価されます。また、プレゼンテーションの完成度では、聴衆の理解に配慮した工夫がなされているか、一貫した主張を持って構成されているかなどが評価されます。

チーム部門では、これに加えて「チームとしての一体感」や「話し手以外のメンバーがサポート役として機能しているか」も評価されます。例えば、プレゼンテーションに合わせてスライドを操作したり、話し手が困った時に適切にサポートしたりすることが評価されます。



地方ブロック決勝

地方ブロック決勝（1）

日 付	内 容
12月24日	地方ブロック予選結果発表 ・地方ブロック予選を通過した個人・チームは地方ブロック決勝に進みます。
12月25日	地方ブロック決勝用動画の受付開始
1月31日	地方ブロック決勝用動画の受付締切
2月12日	地方ブロック決勝結果発表 ・地方ブロック決勝を通過した個人・チームは全国大会に進みます。

地方ブロック決勝では、動画を審査して全国大会進出者を選出します。出場者は、審査当日に参加する必要はありません。

◆地方ブロック決勝用動画の受付開始

- ・地方ブロック決勝用動画の受付を開始します。
- ・地方ブロック予選で提出したエッセイをもとにして、英語によるプレゼンテーションを動画にして提出していただきます。**提出物は動画のみ**です。

◆発表内容

- ・全国大会を想定したプレゼンテーション内容にしてください。
- ・**使用言語は英語**です。
- ・動画としての完成度よりも発表内容やプレゼンテーション能力に対して審査し評価します。
- ・要点が簡潔でオリジナリティあふれる内容を期待します。

◆動画について

- ・動画の**収録時間は4分以内**です。4分を超えないように注意してください。
- ・ファイル形式は、一般的によく用いられている**「.mov」形式、あるいは「.mp4」形式**とします。録画する際にどちらかのファイル形式になっていることを確認してください。
- ・**ファイル容量は1GB以内**です。提出する前に必ず確認してください。
- ・撮影環境（環境音、明るさ、声の反響等）にご注意ください。

◆注意事項

※撮影機材についての指定はありませんが、スマホをご利用の場合は特に、録画時の音量にご注意ください。

※審査結果に関わらずデータ等の返却は行いません。

◆事務局のチェックについて

提出いただいた動画は、地方ブロック決勝前に事務局側にてチェックを行います。チェックする内容は下記の通りです。

- 発表者の声が聞き取れるかどうか
声が小さすぎる、あるいは大きすぎて聞き取れない場合はNG。
- 発表者や周囲の様子が見えるかどうか
暗すぎる、明るすぎて見えづらい場合はNG。
- スライドの文字が読めるかどうか
スライドの文字が小さすぎる、あるいは大きすぎる、明るさの加減で読めないなどの場合はNG。
- **前ページの「動画について」に記載されている項目に反する場合はNG。**



発表者の発言内容やスライドの内容など、プレゼンテーションの内容についてはチェックをしません。

上記のチェック項目を必ず確認してから提出してください。

チェックの結果、NGの箇所が見つかった場合は再提出していただきます。問題ない場合は提出完了となります。再提出でNGの場合は再々提出していただきます。**一度受理した動画は再提出できませんのでご注意ください。**

締め切り間際に提出してNGだった場合、再提出日が締切日を過ぎてしまう可能性があります。NGだった場合でも再提出できるように早めに提出してください。

◆提出方法

Googleドライブの指定したフォルダにアップロードしてください。

アップロードの方法やアップロード先のURLなど、詳細については地方ブロック予選の結果発表後にお知らせします。

◆地方ブロック決勝審査基準をお読みください

地方ブロック決勝は「地方ブロック決勝審査基準」に従って審査を行います。本概要に収録されている「地方ブロック決勝審査基準」を必ずお読みの上、動画を作成してください。

◆動画サンプルをご覧ください

過去の動画の好事例をご覧ください。

● 個人部門

- [第2回CMA銀賞 横浜市立南高等学校 加藤舞さん](#)
- [第4回CMA金賞 足立学園高等学校 八幡昂樹さん](#)
- [第5回CMA金賞 筑陽学園高等学校 春山夏菜絵さん](#)
- [第6回CMA金賞 岡山学芸館高等学校 平岩恋季さん](#)

● チーム部門

- [第2回CMA銅賞 徳島県立城ノ内高等学校 エイミーの皆さん](#)
- [第4回CMA銀賞 東京学芸大学附属国際中等教育学校 KMAKの皆さん](#)
- [第5回CMA銀賞 品川女子学院高等部 JasminePeach Educationの皆さん](#)
- [第6回CMA金賞 開智日本橋高等学校 クアトロフリホレスの皆さん](#)

※上記動画は、ブラウザによってはすぐに再生されず、ディスクに保存される場合があります。

◆スライドの形式について

プレゼンテーションで映し出すために使用するスライドは、特に指定はありません。また、プレゼンテーションファイルを提出していただく必要もありません。

なお、全国大会に出場する際に提出していただくスライドは、PDFのみとなっております。



動画提出の前に、チェックしてみましょう。

★動画作成時

- ☐ 使用している言語は英語である。
- ☐ 話し手の姿が映像の中にあり、口の動きが確認できる。
- ☐ 聞き取りやすい音量である。
- ☐ 見やすい明るさである。
- ☐ スライドに記載されている文字がすべて読み取れる。
- ☐ スライドには他人の著作物を使用していない。
- ☐ 収録時間は4分以内である。
- ☐ ファイルの形式はmov形式、あるいはmp4形式である。
- ☐ ファイルの容量は1GB以内である。



◆FAQ（よくある質問と回答）

- **参加者は動画の中に必ず映っていないといけませんか？**
→原則として全員が動画の中に映っているようにしてください。
- **スライドは必要ですか？**
→はい。必要です。
- **話者が後ろを向いて話しても構いませんか？**
→短時間であれば構いません。原則的に話者は、カメラやスライドに向けて話してください。
- **ディズニーなどのキャラクターをスライドに用いてもよいですか？**
→用いないでください。著作権や肖像権などを侵害しないように注意してください。
- **インターネット上で無料提供しているイラストをスライドに用いてもよいですか？**
→イラストの提供者に確認してください。
- **発表中に、資料を見ながらプレゼンテーションすることは可能ですか？**
→資料の投影などを確認しながらプレゼンテーションを行うことは地方ブロック決勝・全国大会共に可能です。発表原稿を読み上げることは地方ブロック決勝においては可能ですが、パフォーマンスの観点から点数が低くなる可能性があります。全国大会は原則として発表原稿を見ながらの発表は禁止です。
- **地方ブロック予選のエッセイで書いたことと異なる内容を、地方ブロック決勝の動画に入れてもよいでしょうか？ 課題や解決策は変わらないのですが、地方ブロック予選後に実験をしたら結果が少し変わってしまったので、その部分を変えたいと思っています。**
→はい。異なる内容を入れても問題ありません。ちなみに、探究のテーマや課題を大きく変更することはできません。
- **地方ブロック予選を通過したので賞状をいただけますか？**
→賞状はお贈りしておりません。
- **海外アーティストの楽曲の替え歌を作ってプレゼンで発表してもよいですか？**
→できません。著作権のある楽曲や歌詞を替え歌として使用した場合、著作権者から何らかの請求を受ける可能性があるからです。著作権フリーの楽曲をダウンロードし、それに歌詞を加えるなどして対応してください。

- プレゼンの英語のタイトルを変更したいのですが、それは可能でしょうか。話す内容を考えているうちに今のタイトルでは自分のメッセージを正確に伝えられないと感じ、変えたいと思いました。発表内容は変わらず、タイトルに1語付け加えたいのですが、それはできますか？

→はい。探究のテーマや課題が大幅に変更されなければ、タイトルの変更は可能です。



全国大会

※**全国大会出場者には後日、「全国大会出場の手引き」を送付します。**

※全国大会開催前にZoomによる事前ミーティングを開催します。

(保護者様、担当先生もご参加いただけます)

地方ブロック決勝を通過した方は、2026年3月22日（日）に開催される全国大会へ出場していただきます。

全国大会では、地方ブロック予選、および地方ブロック決勝で発表した探究学習について英語でプレゼンテーションしていただきます。プレゼンテーションの時間は7分間です。

全国大会の前に、プレゼンテーション用のスライドを作成して提出していただきます。提出方法などはWebサイトなどでお知らせします。

◆本選日時・会場情報

日時：2026年3月22日（日）10:00-17:00

会場：東京国際交流館プラザ平成

配信：未定



※社会情勢により日時や会場、開催形態を変更する場合があります。



交通費・宿泊費の支給について

全国大会に出場される方には、一定の条件を満たす場合に限り会場までの交通費・宿泊費を支給いたします。出場する生徒の保護者や家族、友人、担当先生などは支給の対象にはなりませんのでご了承ください。

◆交通費の支給について

自宅から全国大会会場（東京お台場）までの往復の交通費を金額の多寡に関わらず支給します。近郊にお住まいの方にも全額支給します。支給条件は下記の通りです。

- 飛行機や新幹線、特急電車などの利用にも支給します。ただし、ファーストクラスやビジネスクラス、グランクラス、グリーン車などのぜいたくな利用があった場合は、その利用額については対象外とします。
- バスの代わりにタクシーに乗るといった、ぜいたくな利用についても利用額について対象外とします。ただし、タクシーを利用する正当な理由がある場合はその限りではありません。
- 自宅から会場まで迂回するルートを利用する場合は、その利用額については対象外とします。
- 定期券が使用できる場合は定期分の経路を差し引いた金額を支給します。

◆宿泊費の支給について

会場近くのホテルに前泊しないと全国大会への出場ができない、あるいは困難な場合は、宿泊費を支給します。

- 最大1万円まで支給します。1万円を超える金額は出場者が負担してください。

◆支給について

- 支給を希望される方は全国大会の前日までに申請してください。
申請方法は後日あらためてお知らせします。
- 全国大会終了後に支給します。



全国大会審査員・司会

審査員は今後追加する予定です。決定次第、掲載します。

●審査員長 アルカンタラ・ライラニ・ライネサ 先生



プロフィール

アルカンタラ・ライラニ・ライネサ (ALCANTARA Lailani L)
立命館アジア太平洋大学 (APU) 国際経営学部長・経営管理研究科長・学校法人立命館理事を務め、2024年より学長特命補佐。筑波大学で経営学の博士号を取得し、2010年にAPUに入職、2021年より国際経営学部初の女性学部長・研究課長。学部長としての役割に加えて、ダイバーシティとインクルージョンを教育、研究、実践で促進するCenter for Inclusive Leadershipの創設者兼マネージングディレクターを兼務。ビジネススクールの最大の国際的な認定機関であるAssociation to Advance Collegiate Schools of Business (AACSB) の理事会メンバー、Association of Asia Pacific Business Schools (AAPBS) の評議会メンバー。『コミュニケーション英語教育を考えるー日本の教育現場に役立つ理論と実践』アルク (2014)

出場者へのメッセージ

The world can be messy and even a little unkind. Disasters, wars, and big challenges are all around us, but so is opportunity. You have the power to shape the future. This competition isn't just about ideas, it's about you stepping up and sparking change. Remember that every big movement starts with one person... and that person could be you!

●審査員 狩野 晶子 先生



プロフィール

狩野 晶子（かのあきこ）

上智大学短期大学部 英語科 教授。

専門は第二言語習得、早期英語教育。

幼稚園、保育園、児童英語教室から中・高・大学生、社会人まで幅広い英語指導歴を有する。

近年はとくに児童英語、小学校英語の分野での実践、研究を進める。

教員研修、指導者研修にも携わり、理論と実践の両輪での指導を長年にわたって行っている。

日本児童英語教育学会（JASTEC）理事、英語授業研究学会 理事、英語教育ユニバーサルデザイン研究学会（AUDELL）理事。

<著書>

文部科学省検定中学校英語教科書『Blue Sky 1』『Blue Sky 2』『Blue Sky 3』啓林館（2025）文部科学省検定

小学校外国語教科書『Blue Sky elementary 5』『Blue Sky elementary 6』啓林館（2024）

『小学校外国語活動・外国語 とっておきの言語活動レシピ』明治図書（2021）

『やさしくまるごと小学英語』学研プラス（2020）

『プログレッシブ小学英和辞典』『プログレッシブ小学和英辞典』小学館（2019）

『新学習指導要領の展開 外国語活動編・外国語編』明治図書（2018）

『コミュニケーションな英語教育を考える－日本の教育現場に役立つ理論と実践』アルク（2014）

出場者へのメッセージ

皆さんがこの挑戦に踏み出した勇気に、心から敬意を表します。

新しい視点を持ち寄り、仲間と協力しながら、考え抜いたアイデアを形にすることは、簡単なことではありません。でも、だからこそ価値がある。皆さんの探究心、批判的思考、そしてチームワークが光るプレゼンテーションを楽しみにしています。

この経験が、皆さんの未来を切り拓く力になりますように。

Your decision to take part in this contest is an inspiring act of courage and curiosity.

Exploring new ideas and shaping them through collaboration is a true intellectual adventure.

I deeply admire your challenge, and I look forward to seeing your creativity, critical thinking, and teamwork shine through your presentations.

May this experience empower you to shape your own future.

●審査員 炭谷 俊樹 先生



プロフィール

炭谷 俊樹（すみたにとしき）

神戸情報大学院大学学長。ラーンネット・グローバルスクール創設者。

アインシュタインに憧れ、物理学者の道を目指すも挫折。マッキンゼーにて10年間日本及び北欧企業のコンサルティングに携わる。新人コンサルタント 採用・研修の責任者も担当。デンマークの社会や教育、とくに娘が通った幼稚園に感銘したことがきっかけで1996年、子どもの探究心や主体性を育む「ラーンネット・グローバルスクール」を神戸で創設。スクール出身の子供たちが卒業後も生き生きと活躍している。

この経験を活かし、子どもの探究心に火をつけるノウハウを身につける「探究ナビ講座」に力を入れている。

2010年からは神戸情報大学院大学学長として、社会人が社会問題をAIなどのICT技術で解決する探究型教育も実践している。

著書 『第3の教育』、『ゼロから始める社会起業』『実践 課題解決の新技術』

出場者へのメッセージ

This is your moment to shine and showcase the results of your passionate inquiry.

Embrace the challenge and share your ideas boldly! Believe in your power to shape the future.

●司会 登 レイナ 氏



プロフィール

登 レイナ（のぼり レイナ）

青山学院大学文学部英米文学科を卒業後、秋田朝日放送にアナウンサーとして入局。

現在はフリーアナウンサーとしてさまざまな仕事を担当。大学時代は英語部に所属し、英語部で英語スピーチをしていたほか、アメリカのモンタナ州で1か月間アルバイトをしながら英語を学んでいた。趣味は英会話と歌を歌うこと。



審査基準

地方ブロック予選審査基準 個人部門（1）

◆審査基準

1. テーマに指定された内容が全て読み取れるか
Yes / No
2. 目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
3. 探究活動の実績から、目標達成への進捗が読み取れるか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
4. 探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
5. 探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

◆評価点の計算方法

「1」についてYesなら1点、Noなら0点。

「2」～「5」は1～7点で評価。

評価点 = 「1」×（「2」＋「3」＋「4」＋「5」）

最高点は28点です。

「1」が0点の場合、「2」～「5」の点数にかかわらず評価点は0点になります。

地方ブロック予選審査基準 個人部門（2）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4 Skills and Inquiry-based Learning Association

◆解説

1. 「テーマに指定された内容が全て読み取れるか」

テーマ要素の網羅性をYes/No評価します。

指定された4つの要素（探究に至る背景、探究の目的、探究の成果、世界をどう変えるか）がエッセイ内に明確に記述されているかを評価します。**記述されていないければNo評価となり、以降の評価点は0となります。**

●探究に至る背景

○求められる記述内容

- なぜその課題に興味を持ったのか
- どのような社会課題や個人的経験がきっかけとなったのか
- 課題の現状分析や問題点の具体的な説明

○良い記述例

- 地域のお年寄りとの交流ボランティアを通じて、多くの高齢者が情報機器の使用に不安を感じ、行政サービスのデジタル化に取り残されている現状を知りました。特に、スマートフォンでのオンライン予約や行政手続きに困難を感じている方が8割以上いることがわかり、この課題に取り組む必要性を強く感じました。

○不十分な記述例

- 高齢者のデジタルデバインド問題に興味があったので、取り組むことにしました。

●探究の目的

○求められる記述内容

- 具体的に何を達成したいのか
- なぜその目的が重要なのか
- 目的達成によってどのような状態を目指すのか

○良い記述例

- 地域在住の65歳以上の高齢者30名を対象に、3か月間の学習支援を通じて、スマートフォンでの行政サービス利用に関する基本的なデジタルスキルの習得を目指します。具体的には、参加者の80%以上が独力で行政サービスの予約システムを利用できるようになることを目標とします。

○不十分な記述例

- 高齢者のデジタルスキル向上を目指します。

地方ブロック予選審査基準 個人部門（3）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4or Skills and Inquiry-based Learning Association

●探究の成果

○求められる記述内容

- 具体的な数値やデータによる結果
- 目標に対する達成度
- 予想外の発見や課題
- 活動プロセスでの学び

○良い記述例

- 3か月間の学習支援の結果：
 - ・参加者30名中26名（87%）が行政サービスの予約システムを独力で利用可能に
 - ・参加者の満足度調査で92%が「とても満足」「満足」と回答
 - ・予想外の発見として、グループ学習方式が個別指導より効果的であることが判明
 - ・定期的な復習会の必要性も明確化

○不十分な記述例

- 参加者の多くがスマートフォンの使い方を学ぶことができました。
- これから調査を開始します。（予定は成果ではありません）

●世界をどう変えるか

○求められる記述内容

- 探究活動の社会的インパクト
- 他地域や異なる課題への応用可能性
- 長期的な展望と波及効果
- 具体的な展開プラン

○良い記述例

- この学習支援モデルを基に：
 - ・市内全域での展開（2024年度目標：200名の高齢者への支援実施）
 - ・学習プログラムのオープンソース化による他地域での活用促進
 - ・若者ボランティアによる持続可能な支援体制の構築
 - ・行政との連携による公式プログラム化の検討

最終的に、デジタル社会から取り残される高齢者をなくし、年齢に関係なく誰もが便利に行政サービスを利用できる地域社会の実現を目指します。

○不十分な記述例

- この活動を続けて、多くの高齢者の役に立ちたいと思います。

地方ブロック予選審査基準 個人部門（4）

評価のポイント

- 各要素が具体的な数値やデータを含んでいるか
- 論理的なつながりを持って記述されているか
- 実現可能性と具体性を備えているか
- 社会的意義が明確に示されているか

これら4つの要素は相互に関連し合い、一貫性のある探究活動の全体像を示す必要があります。それぞれの要素が具体的かつ明確に記述されることで、探究活動の質と意義を適切に評価することが可能となります。

2.「目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか」

探究活動が目的達成に向けて論理的な道筋を示しているかを7段階で評価します。

- 高評価の例：
 - 目的：海洋生態系でのマイクロプラスチック削減
 - アプローチ：生分解性プラスチックの開発研究と実証実験
- 低評価の例：
 - 目的：海洋生態系でのマイクロプラスチック削減
 - アプローチ：海洋汚染の現状調査のみ

※単なる現状把握は目的達成への直接的なアプローチとはなりません。

3.「探究活動の実績から、目標達成への進捗が読み取れるか」

エッセイテーマの1つ「探究の実績」から、目標達成への進捗が読み取れるかを7段階で評価します。

- 進捗が読み取れる例：
 - 目的：ボランティアで訪れた農村部の子供たちの計算能力を高める
 - 探究学習内容：子供たちの計算能力を伸ばす教育メソッドやツールの研究
 - 目標達成への進捗：教育メソッドやツールの実践前後で、子供たちの計算問題に対する考え方がどう変わったかの記録と考察、計算テストのスコア平均値にどれだけの変化が出たかの記録など
- 進捗が読み取れない例：
 - 目的：ボランティアで訪れた農村部の子供たちの計算能力を高める
 - 探究学習内容：子供たちの計算能力を伸ばす教育メソッドやツールの実践記録

※授業で何を行ったかのみが詳細にまとめられている発表では、目的に対してどれだけの進捗が生まれたのかが読み取れません。

4.「探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか」

探究学習の目的達成が、世界にどんな Change を起こすのかについて説明されているかを7段階で評価します。

●Change が述べられている例：

- Change：地域の食品ロス削減のモデルを確立し、他地域への横展開を目指す。
- 目的：地域のパン屋の廃棄食品を削減する
- 探究内容：
 - 顧客の購買パターン分析
 - 最適な値下げタイミングと生産量設定の研究
 - 廃棄ゼロを実現する営業プロセスの構築

●Change が述べられていない例：

- 目的：地域のパン屋の廃棄食品を削減する
- 探究内容：
 - 顧客の購買パターン分析
 - 最適な値下げタイミングと生産量設定の研究
 - 廃棄ゼロを実現する営業プロセスの構築

※この例では、探究の目的は記述されていますが、それが世界にどのような Change をもたらすのかが具体的に述べられていません。単に廃棄削減が目的になっているため、評価は低くなります。

5.「探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか」

探究活動で得られた成果が、具体的かつ明確に記述されているかを評価します。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

評価の目安：

- 7点：具体的な数値やエビデンスを伴う明確な成果
- 4～6点：定性的だが明確な成果の記述
- 2～3点：抽象的または不明確な成果の記述
- 1点：成果の記述がない

地方ブロック予選審査基準 チーム部門（1）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4or Skills and Inquiry-based Learning Association

◆審査基準

1. テーマに指定された内容が全て読み取れるか
Yes / No
2. 目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
3. チームワークが探究活動の推進力となっているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
4. 探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7
5. 探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか
1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7

◆評価点の計算方法

「1」についてYesなら1点、Noなら0点。

「2」～「5」は1～7点で評価。

評価点 = 「1」×（「2」＋「3」＋「4」＋「5」）

最高点は28点です。

「1」が0点の場合、「2」～「5」の点数にかかわらず評価点は0点になります。

地方ブロック予選審査基準 チーム部門（2）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4 Skills and Inquiry-based Learning Association

◆解説

1. 「テーマに指定された内容が全て読み取れるか」

テーマ要素の網羅性をYes/No評価します。

指定された4つの要素（探究の目的、探究の成果、世界をどう変えるか、なぜチームとして探究を行い本大会へ参加したのか）がエッセイ内に明確に記述されているかを評価します。**記述されていなければNo評価となり、以降の評価点は0となります。**

●探究の目的

○求められる記述内容

- 具体的に何を達成したいのか
- なぜその目的が重要なのか
- 目的達成によってどのような状態を目指すのか

○良い記述例

- 地域在住の65歳以上の高齢者30名を対象に、3か月間の学習支援を通じて、スマートフォンでの行政サービス利用に関する基本的なデジタルスキルの習得を目指します。具体的には、参加者の80%以上が独力で行政サービスの予約システムを利用できるようになることを目標とします。

○不十分な記述例

- 高齢者のデジタルスキル向上を目指します。

●探究の成果

○求められる記述内容

- 具体的な数値やデータによる結果
- 目標に対する達成度
- 予想外の発見や課題
- 活動プロセスでの学び

○良い記述例

- 3か月間の学習支援の結果：
 - ・参加者30名中26名（87%）が行政サービスの予約システムを独力で利用可能に
 - ・参加者の満足度調査で92%が「とても満足」「満足」と回答
 - ・予想外の発見として、グループ学習方式が個別指導より効果的であることが判明
 - ・定期的な復習会の必要性も明確化

○不十分な記述例

- 参加者の多くがスマートフォンの使い方を学ぶことができました。
- これから調査を開始します。（予定は成果ではありません）

地方ブロック予選審査基準 チーム部門（3）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4 Skills and Inquiry-based Learning Association

●世界をどう変えるか

○求められる記述内容

- 探究活動の社会的インパクト
- 他地域や異なる課題への応用可能性
- 長期的な展望と波及効果
- 具体的な展開プラン

○良い記述例

- この学習支援モデルを基に：

- ・市内全域での展開（2024年度目標：200名の高齢者への支援実施）
- ・学習プログラムのオープンソース化による他地域での活用促進
- ・若者ボランティアによる持続可能な支援体制の構築
- ・行政との連携による公式プログラム化の検討

最終的に、デジタル社会から取り残される高齢者をなくし、年齢に関係なく誰もが便利に行政サービスを利用できる地域社会の実現を目指します。

○不十分な記述例

- この活動を続けて、多くの高齢者の役に立ちたいと思います。

●なぜチームとして探究を行い本大会へ参加したのか

○求められる記述内容

- なぜチームで取り組むことにしたのか
- チームメンバーそれぞれの役割と強み
- チームとして取り組むことで得られた効果や気づき
- 本大会への参加目的と意義

○良い記述例

- 私たちのチームは、お互いの専門性を活かしながら協力して探究活動に取り組むことにしました。

メンバーの専門性は以下の通りです：

A さん：データ分析、システム開発

B さん：フィールド調査、ユーザーインタビュー

C さん：地域行政との折衝、広報活動

お互いの得意分野を活かすことで、より効果的な学習支援プログラムの開発ができました。

○不十分な記述例

- 仲の良い友人たちと一緒に取り組むことにしました。お互いに協力しながら進めています。

2. 「目的に対して、探究活動の内容が論理的なアプローチとなっているか」

探究活動が目的達成に向けて論理的な道筋を示しているかを7段階で評価します。

●高評価の例：

- 目的：海洋生態系でのマイクロプラスチック削減
- アプローチ：生分解性プラスチックの開発研究と実証実験

●低評価の例：

- 目的：海洋生態系でのマイクロプラスチック削減
- アプローチ：海洋汚染の現状調査のみ

※単なる現状把握は目的達成への直接的なアプローチとはなりません。

3. 「チームワークが探究活動の推進力となっているか」

チームメンバーの長所を活かすなど、チームとして活動する上での工夫が行われているかを評価します。具体的なチームワークの内容を仔細に説明する必要はありませんが、チームとして取り組んだことでどのようなポジティブな面が探究活動に現れたか、エッセイ中で触れてください。

チームワークが読み取れる例：

この実験では、2時間ごとの経過記録が必要だったため、毎日のローテーションを組みました。部活動の関係からローテーションに参加できなかった生徒は、別の時間で次の実験で必要となるモデルの作成に取り組みました。

チームワークが読み取れない例：

この実験では、2時間ごとに経過記録を取りました。2種類のモデルを準備し、それぞれの経過記録の差分からモデルAの効果の高いことがわかりました。

4.「探究学習を通じて実現したい Change が具体的に述べられているか」

探究学習の目的達成が、世界にどんな Change を起こすのかについて説明されているかを7段階で評価します。

●Change が述べられている例：

- Change：地域の食品ロス削減のモデルを確立し、他地域への横展開を目指す。
- 目的：地域のパン屋の廃棄食品を削減する
- 探究内容：
 - 顧客の購買パターン分析
 - 最適な値下げタイミングと生産量設定の研究
 - 廃棄ゼロを実現する営業プロセスの構築

●Change が述べられていない例：

- 目的：地域のパン屋の廃棄食品を削減する
- 探究内容：
 - 顧客の購買パターン分析
 - 最適な値下げタイミングと生産量設定の研究
 - 廃棄ゼロを実現する営業プロセスの構築

※この例では、探究の目的は記述されていますが、それが世界にどのような Change をもたらすのかが具体的に述べられていません。単に廃棄削減が目的になっているため、評価は低くなります。

5.「探究活動の成果を具体的にわかりやすく述べているか」

探究活動で得られた成果が、具体的かつ明確に記述されているかを評価します。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

評価の目安：

- 7点：具体的な数値やエビデンスを伴う明確な成果
- 4～6点：定性的だが明確な成果の記述
- 2～3点：抽象的または不明確な成果の記述
- 1点：成果の記述がない

地方ブロック決勝審査基準 個人部門（1）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4 Skills and Inquiry-based Learning Association

英語力14ポイント、内容90ポイント、満点104ポイント

ODelivery $7 \times 2 = 14$ points

1. The voice of speaker is:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1～3で評価。

2. He/She uses body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4～7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1～3で評価。

OContent ($7 \times 6 + 3 \times 1 = 45$ points) $\times 2 = 90$ points

1. The objective of his/her action to make change was stated:

ineffectively 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 effectively

目標と自らが起こす Change を具体的に述べられているかを評価します。達成目標を提示したアクションが有効なレベルまで具体化していれば程度によって4～7。提示したアクションに対し、問題や達成目標が抽象的または大きすぎる場合は程度によって1～3。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの

天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

2. Both the motivation and background of his/her activity are explained and appealed to the audience:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4～7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1～3の評価。

地方ブロック決勝審査基準 個人部門（2）

3. His/Her action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

1の目標（Object）に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標（Object）の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば論理性と具体性の程度に応じて4～7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標・夢（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

視点：良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション：良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい。

→1～3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点：・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

4. His/Her action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

1の目標（Object）に対するアクションの効果を測ります。目標（Object）に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば程度に応じて4～7の評価。目標（Object）に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1～3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察

→4～7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている。

地方ブロック決勝審査基準 個人部門（3）

5. Each idea is supported by specific examples (data, anecdotes, facts, etc.):

weakly 1 — 2 — 3 strongly

プレゼンテーション全体で述べられる主張が、自ら取ったデータや他者の調査データ、または仮説などによって補強されているかを測ります。

6. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標（Object）の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減につながるアクションを取っている。

7. The results of inquiry learning are:

difficult to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

地方ブロック決勝審査基準 チーム部門（１）

英語力14ポイント、内容84ポイント、満点98ポイント

ODelivery 7×2 = 14points

1. The voice of speakers are:
hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear
聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1～3で評価。
2. They use body language:
poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well
より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4～7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1～3で評価。

OContent (7×6 = 42points) ×2 = 84points

1. The research questions including the background information on the topic are stated:
unclearly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 clearly
探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4～7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1～3の評価。
2. An effective research method for the study theme is used:
unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully
アクションの効果を証明するために、効果的な調査が行われているかを評価します。効果的と思われる調査が行われていれば、その論理性に 応じて4～7の評価。
例1 :
主張 (idea) : 良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる
調査 : 「良い教育を全人類が受けたら、世界が良くなるか」を100人にアンケートを取った
アクション : 良い教育の機会を広げる
→1～3 の評価
例2 :
問題 : プラスチックによる海洋汚染
目標 : 特定海域のクラゲの大量発生を止める
視点 : ・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう
・クラゲの大量発生は様々な要因があるので発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう
調査 : ・クラゲをマンパワーで回収するときのコストを計算した
・クラゲが大量発生する時期を調査し、アクションを行うスケジュールを設計した

地方ブロック決勝審査基準 チーム部門（2）

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案しクラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

3. Action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

目標（Object）に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標（Object）の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば、論理性と具体性の程度に応じて4～7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標・夢（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

視点：良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション：良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい。

→1～3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点：・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

4. Action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

目標（Object）に対するアクションの効果を測ります。目標（Object）に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。目標（Object）に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1～3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない

地方ブロック決勝審査基準 チーム部門（3）



一般社団法人
英語4技能・探究学習推進協会
English 4or Skills and Inquiry-based Learning Association

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察→4～7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている。

5. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標（Object）の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減につながるアクションを取っている。

6. The results of inquiry learning are:

difficult to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

全国大会審査基準 個人部門（1）

英語力14ポイント、内容114（90+24）ポイント、満点128ポイント

ODelivery 7×2=14points

1. The voice of speaker is:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1～3で評価。

2. He/She uses body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4～7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1～3で評価。

OContent（7×6+3×1=45points）×2=90points

1. The objective of his/her action to make change was stated:

ineffectively 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 effectively

目標と自らが起こす Change を具体的に述べられているかを評価します。達成目標を、提示したアクションが有効なレベルまで具体化していれば、程度によって4～7。提示したアクションに対し、問題や達成目標が抽象的または大きすぎる場合は、程度によって1～3。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3 の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの

天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7 の評価

2. Both the motivation and background of his/her activity are explained and appealed to the audience:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4～7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1～3の評価。

全国大会審査基準 個人部門（2）

3. His/Her action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

1の目標（Object）に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標（Object）の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば、論理性と具体性の程度に応じて4～7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標・夢（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

視点：良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション：良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい

→1～3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点：・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

4. His/Her action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

1の目標（Object）に対するアクションの効果を測ります。目標（Object）に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば程度に応じて4～7の評価。目標（Object）に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1～3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察

→4～7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている。

全国大会審査基準 個人部門（3）

5. Each idea is supported by specific examples (data, anecdotes, facts, etc.):

weakly 1 — 2 — 3 strongly

プレゼンテーション全体で述べられる主張が、自ら取ったデータや他者の調査データまたは仮説などによって補強されているかを測ります。

6. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標（Object）の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減 につながるアクションを取っている。

7. The results of inquiry learning are:

difficult to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

全国大会審査基準 個人部門（4）

○Performance（3×2=6points）×4=24points

1. The speaker handles questions:
poorly 1 — 2 — 3 well

2. Completeness of the presentation. His/Her subject is expressed:
1 — 2 — 3

プレゼンテーションとしての完成度を総合的に評価します。Delivery に見られる英語の運用力だけでなく、多彩なプレゼンテーマを聴衆に理解させるための創意工夫が為されているかを下記の評価ポイントの総合点で評価してください。（Yesなら1点、Noなら0点）

評価ポイント：

- ・テーマに対する聴衆の理解へ配慮する工夫がなされていた（Yes / No）
- ・一貫した主張を持ってプレゼンテーションが構成されていた（Yes / No）
- ・質疑応答でのコミュニケーションにおいて、質問に対する回答が明確に語られていた（Yes / No）

全国大会審査基準 チーム部門（1）

英語力14ポイント、内容112（84+28）ポイント、満点126ポイント

ODelivery 7×2=14points

1. The voice of speakers are:

hard to hear 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to hear

聞き取りやすい発声、発音であれば7。カタカナ英語や抑揚をつけない話し方、速すぎたり遅すぎたりして聞き取りづらい話し方などは1～3で評価。

2. They use body language:

poorly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 well

より伝わりやすいようにボディランゲージを使った話し方をしていれば程度に応じて4～7で評価。あまり体を動かさない、顔で喜怒哀楽を表さない場合は1～3で評価。

OContent（7×6=42points）×2=84points

1. The research questions including the background information on the topic are stated:

unclearly 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 clearly

探究テーマを選定した動機と探究活動の背景が明確に語られれば、程度に応じて4～7の評価。上記が不明確、または語られなかった場合は、程度に応じて1～3の評価。

2. An effective research method for the study theme is used:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

アクションの効果を証明するために、効果的な調査が行われているかを評価します。効果的と思われる調査が行われていれば、その論理性に応じて4～7の評価。

例1：

主張（idea）：良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

調査：「良い教育を全人類が受けたら、世界が良くなるか」を100人にアンケートを取った

アクション：良い教育の機会を広げる

→1～3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標：特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点：・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って
駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生む
システムを作ろう

調査：・クラゲをマンパワーで回収するときのコストを計算した

・クラゲが大量発生する時期を調査し、アクションを行うスケジュールを設計した

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である
在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

3. Action plan was carried out with a unique and logical perspective:

unsuccessfully 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 successfully

目標（Object）に対し、アクションに至る視点の論理性と具体性を測ります。目標（Object）の実現のため、どういう視点でアクションを考えたか説明があれば、論理性と具体性の程度に応じて4～7の評価。視点の論理性と具体性が不十分であれば、程度に応じて1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標・夢（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

視点：良い教育をすべての人が享受できれば、より良い世界になる

アクション：良い教育の機会を広げる

→教育の質と機会と「良い世界」の関係性が説明なく、視点の論理性と具体性が乏しい

→1～3の評価

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標・夢（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

視点：・クラゲを人為的に取り除くマンパワーが足りないので、人間以外の生物を使って駆除できるようにしよう

・クラゲの大量発生は様々な要因があるので、発生しているクラゲが利益を生むシステムを作ろう

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価

4. Action to make change was explained:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

目標（Object）に対するアクションの効果を測ります。目標（Object）に対するアクションの効果が論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。目標（Object）に対するアクションの論理性が説明されていない、または説明が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育の機会を広げる。特定地域での教育ボランティアを行う。

→1～3の評価。アクションによる目標への効果の程度や仕組みが論理的に説明されていない

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、ゴミの減少とクラゲの天敵である在来種の増加を観察

→4～7の評価。アクションによる問題への効果計測が示されている

全国大会審査基準 チーム部門（3）

5. The speaker explains how his or her idea can contribute to the world:

illogically 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 logically

問題と目標（Object）の相互関係が論理的に説明されているかどうかを測ります。提示した問題に対し、目標の実現が問題解決に繋がるものであるかどうか、論理的に説明されていれば、程度に応じて4～7の評価。説明がない、または論理性が不十分であれば1～3の評価。

例1：

問題：より良い世界の実現

目標（Object）：質の高い教育の機会を平等にする

アクション：良い教育を広げる

→1～3の評価。「教育の機会平等化」がどのように「より良い世界の実現」と繋がるのか、説明が不十分。

例2：

問題：プラスチックによる海洋汚染

目標（Object）：特定海域のクラゲの大量発生を止める

アクション：・プラスチックゴミを効果的に取り除く方法を考案し、クラゲの天敵である
在来種を増やす

・効果的にクラゲを取り除き再利用するユニークなシステムを提案

→4～7の評価。「特定海域のクラゲの大量発生」の原因としてプラスチック汚染を挙げ、その問題解決の過程でプラスチック汚染軽減 につながるアクションを取っている。

6. The results of inquiry learning are:

difficult to understand 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 — 7 easy to understand

探究活動の結果、どのような成果が得られたかを具体的にわかりやすく述べているかどうかを測ります。成果をまったく述べていない場合は1、不明瞭な場合は2～3で評価。

OPerformance（3+4=7points）×4=28points

1. They handle questions:

poorly 1 — 2 — 3 well

2. Overall outcome of the presentation. His/her subject is expressed

1 — 2 — 3 — 4

プレゼンテーションとしての完成度を総合的に評価します。Deliveryに見られる英語の運用力だけでなく、多彩なプレゼンテーマを聴衆に理解させるための創意工夫が為されているかを下記の評価ポイントの総合点で評価してください。（Yesなら1点、Noなら0点）

評価ポイント：

- ・プレゼンテーションからチームとしての一体感が感じられた（Yes / No）
- ・話し手以外のメンバーがサポート役として役割を果たしていた（Yes / No）
- ・一貫した主張を持ってプレゼンテーションが構成されていた（Yes / No）
- ・質疑応答でのコミュニケーションにおいて、質問に対する回答が明確に語られていた（Yes / No）

1. 基本方針

一般社団法人 英語4技能・探究学習推進協会（以下「当協会」といいます）は、当協会が運営する事業、コンテスト、イベントおよび関連サービス（以下、「運営事業」といいます）を利用するお客さま（以下「利用者」といいます）の個人情報の保護および利用者が運営事業を安心して利用しうる体制の構築を目的として、『サービスプライバシーポリシー』（以下、「本ポリシー」といいます）を定め、本ポリシーに基づき個人情報の適切な取得、利用、提供等を行うものとしします。

2. 適用範囲

2-1.

本ポリシーは、運営事業において当協会が利用者より取得する個人情報について適用されます。本ポリシーにおいて個人情報とは、個人情報の保護に関する法律に定める個人情報に加え、以下の情報を指します。

- ・特定の個人と結びついて使用されるメールアドレス、パスワード、クレジットカードなどの情報

- ・上記と一体となった購入取引に関する情報、趣味、家族構成、年齢その他の個人に関する属性情報

2-2.

当協会は、本ポリシーとは別に個別サービス毎のプライバシーポリシー（以下、「個別ポリシー」といいます）を定める場合があります。この場合、個別ポリシーに別段の定めがある場合を除き、当該個別サービスに関しては、本ポリシーとともに個別ポリシーが適用されます。

2-3.

運営事業において、当協会の会員や広告主等が主体となって、その提供物・サービスの中でアンケート等を実施し、利用者の個人情報を収集する場合があります。

この場合、会員や広告主等が個人情報の収集・利用・保有・管理等の主体となります。

会員や広告主等は、独自のプライバシーポリシー等を定め、当該プライバシーポリシー等に従い個人情報を取り扱う独立した事業者であり、このような形で収集された個人情報は当協会では保有せず、本ポリシーは適用されません。

3. 個人情報の取得と管理

3-1.

当協会が利用者の個人情報を取得する際は、利用者が運営事業を利用する上で必要な範囲内で利用目的を特定し、明示します。

なお、当協会が利用者から取得する個人情報は、当協会が提供する各サービス等によって異なります。

3-2.

当協会は、利用者の個人情報について、十分な安全管理措置を講じた上で、業務上必要な範囲かつ、適法で公正な方法で取得および管理します。

4. 利用目的

当協会は、利用者から取得した個人情報を次の目的のため利用します。

なお、本ポリシーとは別に利用目的を通知した場合は、以下の目的に加え、個別に通知した利用目的のために個人情報を利用します。

- ・利用者の個人認証や運営事業の提供および利用者管理
- ・運営事業の利用料金の請求、返金
- ・利用者の申込み・同意に基づく、運営事業利用企業・提携企業・団体等への個人情報の提供
- ・商品や景品の発送
- ・運営事業について重要なお知らせの通知
- ・イベント、コンテストの招待、結果に関する通知、郵送
- ・個人が特定できないよう加工した上での利用状況等の調査や統計データの作成および社内外への開示
- ・利用者からの問い合わせへの対応
- ・上記の利用目的に付随する目的

5. 第三者提供の有無

5-1.

当協会は、利用者の個人情報を本人の同意を得ずに第三者に開示することは原則としてありません。

ただし、以下のような場合、その必要性を十分検討した上で、個人情報を開示することがあります。

- ・ 人の生命、身体、財産の保護のために必要がある場合であって、利用者本人の同意を得ることが困難である場合
- ・ 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、利用者本人の同意を得ることが困難である場合
- ・ 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、利用者本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある場合
- ・ その他法令により当協会に個人情報の開示又は提供義務が定められている場合
- ・ 利用目的の達成に必要な範囲内において、提携先企業等に業務を委託する場合
- ・ 提供する情報が利用者本人を特定・識別することのできないものである場合

5-2.

当協会は、個人情報の取り扱いを委託する場合、個人情報を適切に管理できると認められる委託先を選定し、個人情報の安全管理が図られるよう、必要かつ適切な監督を行います。

6. 個人情報の開示・訂正・利用停止等

当協会は、個人情報保護管理者を中心として個人情報を適切に管理します。

個人情報の開示、訂正、削除のお申し出や、個人情報管理に関するお問合せは、以下の問い合わせ先までご連絡ください。

<個人情報保護管理者>

事務局長 梶川勝正

<問い合わせ先>

〒108-0014

東京都港区芝5丁目14-13 アセンド三田7階

一般社団法人 英語4技能・探究学習推進協会 総合窓口

7. プライバシーポリシーの変更

当協会は、本ページに変更後の掲載をすることにより、事前の予告なく本ポリシーの内容を変更することがあります。運営事業をご利用の際には、本ポリシーの最新の内容をご確認ください。

8. 改訂

制定：2018年4月20日

改訂：2021年7月20日

CMAへのご参加にあたって の確認事項

CMAに提出いただいた下記の文書・映像の一部あるいは全部は、今後のCMAの活動のために弊社Webサイトなどを通して公開する場合があります。

- ・ 地方ブロック予選用のエッセイ
- ・ 地方ブロック決勝用の動画（プレゼンテーション資料を含む）
- ・ 全国大会用の要約（日本語、および英語）
- ・ 全国大会用のプレゼンテーション資料
- ・ 学習支援プログラム報告書（写真を含む）
- ・ 上記に付帯する文書・映像

全国大会の映像や写真は、弊社Webサイトや外部サイト（YouTubeなど）を通して公開する場合があります。

※観客席や会場外(受付ブース・待ち合わせブースなど)での映像や写真も含まれます。

一般社団法人 英語 4 技能・探究学習推進協会

〒108-0014

東京都港区芝 5 丁目 1 4 - 1 3 アセンド三田7階

TEL: 03-4405-3630

FAX: 03-5432-9907

MAIL: info@esibla.or.jp

▷Change Maker Awards 公式Webサイト
<https://esibla.or.jp/change-maker-awards/>

▷ESIBLA教育フォーラム
<https://esibla.or.jp/esibla-forum/>

▷一般社団法人英語 4 技能・探究学習推進協会HP
<https://esibla.or.jp/>

▷探究学習白書
<https://esibla.or.jp/inquiry-based-learning-white-paper/>

お気軽にお問い合わせください。